

W-1-3

スカンジナビア語の目的語移動—統語移動が音声部門から要請される一例—

細野まゆみ

1. はじめに

- ・スカンジナビア語における「目的語移動」(Holmberg 1986)の特異性
- ・目的語代名詞移動(に関連する)文のイントネーション分析と仮説 (Hosono 2013) :
「スカンジナビア語において、目的語代名詞はダウンステップを引き起こすために移動する」
- ・目的語代名詞移動文の Labeling Algorithm (Chomsky 2015) の枠組みにおける派生 :
「Criteria Position」から抜け出る移動が目的語代名詞のみ例外的に可能
- ・提案と定式化 :
「文要素は音声部門からの要請があるときのみ「Criteria Position」からの移動が可能である」 ;
「音声部門からの要請により起こる移動」 : unvalued feature(s)を持たない文要素の統語移動

2. スカンジナビア語の目的語移動(Holmberg 1986)

- (1) a. Jag kysste inte Marit. b. Jag målade den inte. [Swe.]
I kissed not Marit I painted it not
'I didn't kiss Marit.' 'I didn't paint it.'

(1a) スカンジナビア語において、目的語名詞句は、通常は移動せず

(1b) 目的語代名詞は、文副詞を越えて移動可能

Holmberg の一般化(Holmberg 1986) : 目的語代名詞の移動は本動詞の移動に依存する

- (2) a. Jag målade <^{OK}den> inte [VP målade <^{OK}den>]. [Swe.]
I painted it not it
'I didn't paint it'
b. Jag har <*den> inte [VP målat <^{OK}den>].
I have it not painted it
'I haven't painted it.'
c. Jag sa att jag <*honom>inte [VP målade <^{OK}honom>].
I said that I him not painted him
'I said that I didn't paint him.'

(2a) 主節 : 本動詞が移動 ; 目的語代名詞も移動可能 (移動が義務的かオプションになり得るかはスカンジナビア語の方言による)

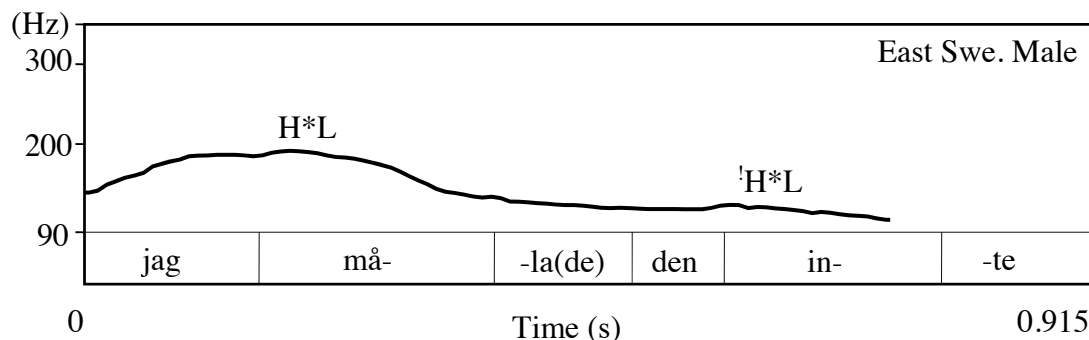
(2b) 複合時制節 : 助動詞が置かれるため本動詞(過去分詞)は移動せず ; 目的語代名詞の移動不可

(2c) 埋め込み節 : 本動詞の移動なし ; 目的語代名詞の移動不可

ある文要素の移動が他の文要素の移動に依存するような移動現象は、スカンジナビア語の目的語移動以外に発見されず→生成文法では係争中の事案(cf. Chomsky 2001)

3. 目的語代名詞移動(に関連する)文のイントネーション分析(Hosono 2013; スウェーデン語のイントネーションシステムについては、Bruce (1977)を参照)

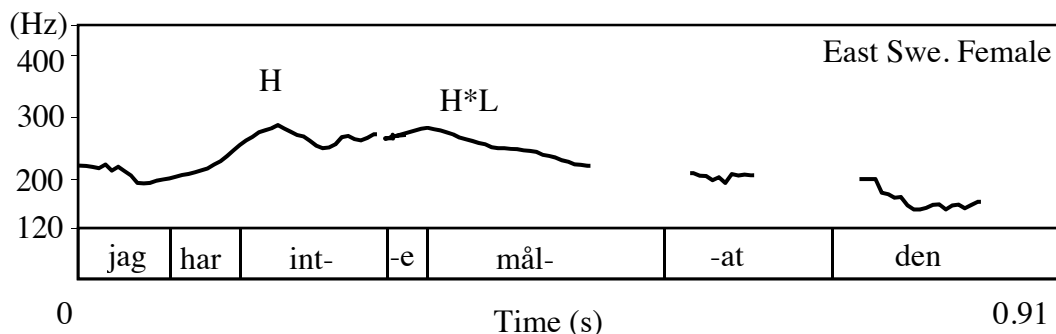
- (3) 主節文:
(Målade du väggen? – Nej.) Jag målade den inte.
 ‘(Did you paint the wall? – No.) I didn’t paint it.’



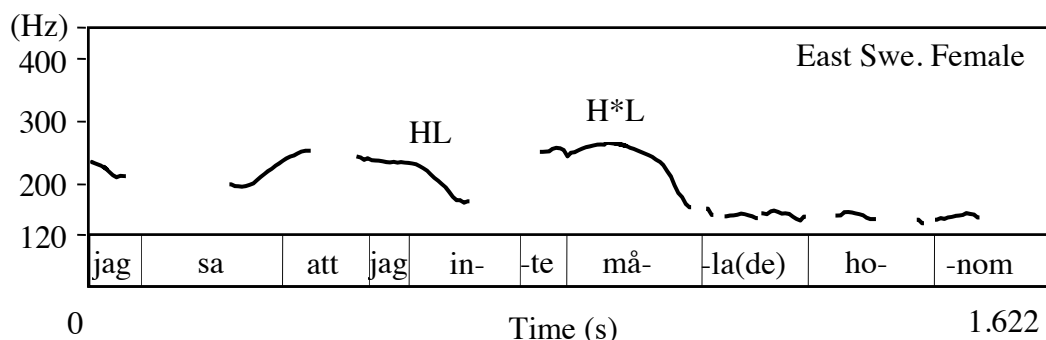
本動詞が移動し代名詞も移動する場合、本動詞から否定辞にかけて、ピッチ (F0) が下がる :

ダウンステップが、目的語代名詞移動文において生ず

- (4) 複合時制節:
(Har du målat väggen? – Nej.) Jag har inte målat den.
 ‘(Have you painted the wall? – No.) I haven’t painted it.’



- (5) 埋め込み節:
(Vad sa du? –) Jag sa att jag inte målade honom.
 ‘(What did you say? –) I said that I didn’t portray him.’



本動詞が移動せず代名詞も移動しない場合、否定辞から本動詞にかけてピッチ (F0) が下がらない :

ダウンステップが、目的語代名詞が移動できない文では生じない

スカンジナビア語の目的語移動に関する仮説 (Hosono 2013) :

「スカンジナビア語において、目的語代名詞はダウンステップを引き起こすために移動する」

Holmberg の一般化の説明 : 本動詞ー焦点(Focus)を担うーが移動するとき、目的語代名詞が移動し

てダウンステップを引き起こし、本動詞の後ろに位置する文要素が焦点化されるのを防ぐ；ダウンステップが生じてはならない環境、i.e. ピッチが焦点を担う本動詞(/過去分詞)に向かって上がらなければならない環境、では、目的語代名詞の移動は生じない

4. 目的語代名詞移動文の Labeling Algorithm (Chomsky 2015) の枠組みにおける派生

4.1. 「Criterial Position」(Rizzi 2015; Chomsky 2015)

(6) a. You wonder [_{CP} [which dog] C John likes ~~[which dog]~~].

b. *_{CP} [which dog] do you wonder [_{CP} ~~[which dog]~~ C John likes ~~[which dog]~~]?

(6a) 目的語の WH 疑問詞「which dog」が元位置から埋め込み節の[Spec,CP]へ移動

(6b) 埋め込み節の[Spec,CP]から抜け出て、主節の[Spec,CP]へさらに移動することは不可
「Criterial Position」:

埋め込み節の[Spec,CP]のように、文要素が凍結しそこを抜け出てさらに上へは移動できない位置

4.2. 目的語代名詞移動文の派生

Labeling Algorithm (LA、Chomsky 2015): ラベルを付与しながら進んでいく派生システム

(1a) (=7a)と(1b) (=7b)の LA をベースにした派生 (v*P が Transfer (= Spell-Out)されるまで)

(7) a. ... C [_α(=TP) jag [T [_β inte [_γ(=v*P) jag [kysste(=R)+v* [_δ(=RP) Marit [~~kysste(=R)~~ [_ε Marit]]]]]]]]]

b. ... C [_α(=TP) jag [T [_β inte [_γ(=v*P) jag [målade(=R)+v* [_δ(=RP) den [~~målade(=R)~~ [_ε den]]]]]]]]]

- 動詞のルート R (= V、kysste (7a)/målade (7b))が内項(Marit (7a)/den (7b)、unvalued Case feature を持つ)と Merge (併合) ;
- kysste/målade(=R)は phase head ではなく「weak (それ自身ではラベル付与不可)」との仮定により、den/Marit が R を強化するため[Spec,R]へ移動 ;
- Phase head の v*が δ に Merge ; v*が持つ functional features が målade/kysste(=R)へ継承 ;
- Målade/kysste(=R)と den/Marit が Agree、目的語に対格付与 ; δ が RP とラベル付け ;
- Målade/kysste(=R)が v*へ移動 ; R の補部 ε (すでに空) が Transfer ;
- v*の外項 jag、否定辞 inte、T が Merge ;
- T は phase head ではなく「weak」との仮定により、T の補部中の DP、i.e. [Spec,γ]の jag、が T を強化するため[Spec,α]へ移動 ; LA が v*を「見つけ」、γ が v*P とラベル付け ;
- Phase head の C が α に Merge ; C が持つ functional features が T へ継承 ;
- T と jag が Agree、主語に主格付与 ; α が TP とラベル付け ;
- T の補部 γ(=v*P) (δ(=RP)も含めて) が Transfer。

目的語が位置する[Spec,RP]の特性 :

—目的語は対格を付与された後、移動せず : unvalued [wh]などを持つ目的語以外、[Spec,RP]は目的語にとって通常、「Criterial Position」である

—目的語は、普通名詞・代名詞ともに、[Spec,RP]から抜け出てさらに上へ移動はできないはず
—スカンジナビア語の目的語代名詞のみ例外的に移動可能

5. 提案と定式化

- [Spec,RP]は目的語にとって「**Criterial Position**」: unvalued Case feature への value 付与が完了、上へのさらなる移動は通常不可
- スカンジナビア語の目的語代名詞のみ例外的に移動可能
- Hosono (2013)の仮説: 目的語代名詞はダウンステップを引き起こす必要があるときに移動する
→ 目的語代名詞の移動は、音声部門からの要請により起こる

提案:

「文要素は音声部門からの要請があるときのみ「**Criterial Position**」からの移動が可能である」

「音声部門からの要請により起こる移動」の定義

- (cf. 4.2.) [Spec,RP]へ移動する目的語は、unvalued Case feature を持つ; *målade/kysste*(=R)との Agree により対格付与; value がまだ付与されていない feature(s)が[Spec,RP]でゼロに

定式化: 音声部門からの要請により起こる移動 – unvalued feature(s)を持たない文要素の統語移動

予測: 音声部門からの要請がないとき、「**Criterial Position**」からの移動は起こる必要がない

Hosono(2013)のダウンステップに関する統計データ

- 主節における目的語代名詞の移動は、スカンジナビア語の方言により義務的かオプション

(2a) Jag målade <^{OK}den> inte [VP ~~målade~~ <^{OK}den>].

- ダウンステップ発生率・ピッチ (F0) の下降率ともに、目的語代名詞が移動しない構文、i.e. *Jag målade inte den*、よりも、移動した構文、i.e. *Jag målade den inte*、において圧倒的に高い
- 音声部門からの要請でダウンステップが起こる必要のあるとき、目的語代名詞が「**Criterial Position**」から抜け出してダウンステップを引き起こす;ダウンステップが起こる必要のないとき、目的語代名詞は移動する必要がない

6. 終わりに

参考文献

- Bruce, Gösta. (1977) *Swedish Word Accents in Sentence Perspective*. Travaux de L'Institut de Linguistique de Lund XII. CWK GLEERUP. PhD dissertation, Lund University.
- Chomsky, Noam. (2001) Derivation by Phase. In *Ken Hale: A Life in Language*, ed. by Michael Kenstowicz, 1-52. Cambridge, MA: MIT Press.
- Chomsky, Noam. (2015) Problems of projection: Extensions. In *Structures, Strategies and Beyond: Studies in Honour of Adraian Belletti*, ed. by Elisa Di Domenico, Cornelia Hamann, and Simona Matteini, 3-16. Amsterdam: John Benjamins.
- Holmberg, Anders. (1986) *Word Order and Syntactic Features in the Scandinavian Languages and English*. PhD dissertation, University of Stockholm.
- Hosono, Mayumi. (2013) *Object Shift in the Scandinavian Languages: Syntax, Information Structure, and Intonation*. PhD dissertation, Leiden University.
- Rizzi, Luigi. (2015) Cartography, criteria, and labeling. In *Beyond Functional Sequence: The Cartography of Syntactic Structures, Volume 10*, ed. by Uri Shlonsky, 314-338. Oxford: Oxford University Press.